

宮崎大学大学院 健康科学研究科 心理科学専攻（修士課程）

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 新設組織の概要	2
2. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み等.....	3
3. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	7
4. 新設組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向.....	8

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

宮崎大学は、看護学研究科を健康科学研究科に名称変更して、看護学専攻と心理科学専攻（入学定員6人）の2専攻に再編する。

新設組織	入学 定員	収容 定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
宮崎大学大学院 健康科学研究科 心理科学専攻	6	12	清武キャンパス：宮崎県宮崎市清武町木原 5200 番地 木花キャンパス：宮崎県宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地

(2) 新設組織の特色

宮崎大学大学院健康科学研究科心理科学専攻（以下、「本専攻」という。）の新設は、宮崎県における深刻な公認心理師不足の解消や、喫緊の地域ニーズへの対応と心の健康支援者の供給を目的として、宮崎県公認心理師・臨床心理士会及び宮崎県発達障害者支援センターなどの地域の機関からの強い要望や、宮崎県・宮崎市との協議（実習施設の提供等の協力確約を含む）を踏まえて行われる。

本専攻は、心理学と看護学との連携教育体制及び地域の関係機関との強固な協働体制を基盤とし、保健医療、福祉、教育等の多様な分野を横断する共同学修を通じて、宮崎県の多様な心理的支援へのニーズに応える質の高い専門人材を育成することを目的としている。

養成する人材像は、科学者－実践家モデルに基づき、科学的根拠に裏づけられた心理療法の一つである認知行動療法を実践することのできる高い専門的知識と技能、倫理観と責任感を兼ね備え、心理支援のリーダーとして地域社会の心理的課題の解決に寄与できる人材である。特に、認知行動療法の理論と技法の学修を重視することで、科学的妥当性と実装可能性を兼ね備えた心理支援者の養成を強化する点に特色がある。

具体的な人材像は以下のとおりである。

1. 心理支援業務の遂行に求められる高い専門的知識・技能・倫理観を備えた心理支援の高度専門人材
2. 科学者－実践家モデルの理念に基づき、科学的根拠に裏づけられた心理療法の一つである認知行動療法を実践することのできる心理支援の高度専門人材
3. 保健医療・福祉・教育の現場において、心理・看護・医学等の知見を活用して多職種連携によるチームアプローチを実践することで心理的諸課題の解決に寄与することのできる心理支援の高度専門人材
4. 地域における心理的諸課題の解決に向けて、研究倫理に関する素養を身に付けた上で、認知行動療法に関する理論研究や実践研究を推進し、その成果を国内外に発信する能力を備えた心理支援の高度専門人材

2. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み等

本専攻では、宮崎県の深刻な公認心理師不足の状況によるニーズの高さを踏まえ、入学定員を6人と設定している。また、①県内の学部養成機関の卒業生、②県外の公認心理師養成学部の卒業生、③社会人経験者という3つの主要なターゲット層を設定して、安定的な学生確保に取り組む。

(1) 県内の学部養成機関の卒業生【資料1-1、1-2】

宮崎県内唯一の公認心理師養成学部を有する九州医療科学大学の臨床心理学科の学生に対するニーズ調査（アンケート）を実施した結果、図1のように「大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい」と回答した30人のうち24人（80%；1年生11人、2年生4人、3年生4人、4年生5人）が「宮崎県に公認心理師養成大学院があれば、宮崎県内の大学院を希望する」と回答しており、県内での公認心理師養成大学院設置に対する強いニーズが確認されている。また、九州医療科学大学は本学の養成課程設置に協力する意向を示しており、本学大学院への進学を推奨する内諾も得ている。

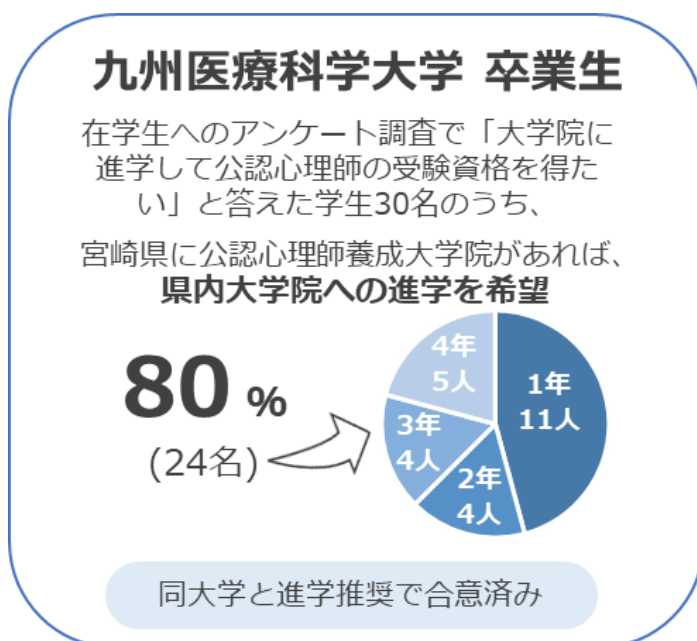


図1：九州医療科学大学の臨床心理学科の学生に対するニーズ調査の結果

なお、本専攻のように心理学系学部を設置していない大学院で、公認心理師養成学部を有する近隣の大学との連携体制をとっている大学院として愛媛大学大学院教育学研究科心理発達臨床専攻がある（入学定員10人）。同専攻の過去3年間の志願者数が、令和5年度が21人、令和6年度が23人、令和7年度は22人（志願倍率2.1～2.3倍）であることを踏まえると、県内大学との連携体制による志願者も十分期待できる。

(2) 県外の公認心理師養成学部の卒業生【資料2-1、2-2、2-3】

公認心理師受験資格に必要な学部段階の教育課程を有する県外大学を卒業した県内出身のUターン希望の学生や、県外大学から認知行動療法を専門的に学ぶことのできるカリキュラムを準備している本専攻研究科の特色に魅力を感じて志望するIJターンの学生も

ターゲットとして想定している。実際に、平成11年から平成27年までの大学院教育学研究科修士課程の修了者の中で臨床心理士養成の課程を修了した者42人のうち、30人(71%)が他大学の出身者であった。この30人のうち19人(63%)は、認知行動療法を学ぶことを目的として進学してきた者であった。なお、認知行動療法(Cognitive Behavioral Therapy)は、「設置の趣旨等を記載した書類」の7～8ページに記載しているとおり、介入手続きの明確性と豊富な実証研究に支えられた問題解決指向の心理療法であり、メンタルヘルスの維持・増進に寄与する理論と技法として国際的に広く活用されている。

また、医学部医学科と看護学科、教育学部、医学部附属病院の教員による教育体制をとっている公認心理師養成大学院は、設置数が少なく、医学部や教育学部などが協働して、身体面と心理面の健康を統合的に捉える視座を涵養することができる教育は、公認心理師を目指す学部卒業生にとって魅力的な特徴の一つであると言える。実際、医学系教育体制下で公認心理師を養成している本専攻と同程度の入学定員規模の研究科・専攻である鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻(定員6人)の過去3年間の志願者数が、令和5年度が15人、令和6年度が23人、令和7年度は18人(志願倍率2.5～3.8倍)であることを踏まえると、県外大学の学部卒業生の志願も見込まれると判断できる。

実際、宮崎県内の公立高等学校の主要な進学校8校の生徒(計6,827人:1年生2,304人、2年生2,275人、3年生2,248人)を対象とした「高校生の公認心理師に関する進路希望アンケート」(回答総数(アンケート協力者)427人:1年生148人、2年生232人、3年生47人、回答率6.25%)からは、「希望する職業として、公認心理師を考えている人」は、56人(13%;1年生24人、2年生21人、3年生11人)であり、公認心理師5分野のうち、保健医療分野(27%)、福祉分野(18%)、教育分野(31%)と、本専攻が中核に据えている3分野への関心が高いことが分かる。また、「公認心理師の資格取得後、どこで仕事をしたいと考えているか」については、宮崎県での就職希望が28人(52%)、その他(宮崎県外、希望なし、未定)は26人(48%)であった。「大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい人」は、38人(68%)であり、「本専攻への進学希望」が16人(43%;1年生8人、2年生5人、3年生3人)、「わからない」が11人(30%;1年生4人、2年生4人、3年生3人)、「宮崎県外の大学院への進学希望」が10人(27%)であった。(未回答1人除く。)このことから、公認心理師を目指す高校生の多くが大学院進学を希望しており、そのうち約4割が本専攻を選択肢に数えている。今後、大学院説明会やウェブサイト等での情報発信に積極的に取り組むことで「わからない」層を取り込むことも可能と考える。

さらに、「本専攻への進学希望」する高校生16人のうち「宮崎県就職希望者」は、13人(1年生7人、2年生4人、3年生2人)であり、本専攻への進学希望者の8割を超える生徒が、将来宮崎県での心理支援職を希望している。すなわち、本専攻を設置することによって、宮崎県の公認心理師不足という課題を解決するとともに、若手人材の県外流出という課題についても貢献できると推測される(表1)。

表 1：県内高校生に対するニーズ調査の結果（公認心理師希望者56人）

質問項目	結 果		
Q1 学年×Q2「公認心理師」希望	1年生	2年生	3年生
	24人	21人	11人
Q2で「公認心理師希望」と回答した生徒56人のうち			
Q3 公認心理師の資格取得後の活動分野 (複数回答可)	保健医療分野		27%
	福祉分野		18%
	教育分野		31%
	司法・犯罪分野		12%
	産業・労働分野		13%
Q4 公認心理師として宮崎県で働きたい	28人(52%)		
Q5 公認心理師の受験資格取得方法	大学院進学		38人(68%)
	学部卒業後2年以上の実務経験を積む		18人(32%)
Q5で大学院進学と回答した生徒38人のうち			
Q6 宮崎大学大学院に進学希望	1年生	2年生	3年生
	8人	5人	3人
Q6 分からない	4人	4人	3人
Q6 宮崎大学×Q4 宮崎県就職	7人	4人	2人
Q6 分からない×Q4 宮崎県就職	0人	3人	0人
Q6 他大学×Q4 宮崎県就職	1人	1人	0人
Q5で「学部卒業後2年以上の実務経験を積む」と回答した生徒18人のうち			
Q5 実務経験×Q4 宮崎県就職	2人	5人	2人
Q7 学部卒業後2年以上の実務経験を積む理由	早く臨床現場で働きたいから		3人(17%)
	大学院に行かなくても公認心理師の資格が取得できるから		5人(28%)
	大学院進学に関心がないわけではないが、経済的な負担がかかるから		7人(39%)
	その他		3人(17%)

一方、「学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい」と回答した人は18人(32%)であるが、その理由として「大学院進学に関心がないわけではないが、経済的な負担がかかるから」を選択した高校生が7人(39%)、「早く臨床現場で働きたいから」を選択した高校生が3人(17%)であった。加えて、「学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい」と回答した18人のうち、「宮崎県就職希望者」は9人と、半数が将来宮崎県での心理支援職を希望している。こ

これらの結果は、社会人入学生として大学院で修学する人が一定数存在していることを示す結果であると捉えることができる。

(3) 社会人経験者【資料3-1、3-2】

公認心理師養成の学部を卒業したのち、各分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）での職務経験がある社会人は、多様な背景を持つ人材として積極的に受け入れる対象となる。特に、県内の社会人が主なターゲットとなる。

実際、本専攻の学外実習協力施設となる予定の心理支援関係機関へのアンケート結果からは（配布数：16機関・施設、回答数：15機関・施設（保健医療分野5、福祉分野4、教育分野3、司法・犯罪分野2、産業・労働分野1））、「宮崎県内に大学院があれば、大学院への進学を希望する社会人が在職している」との回答を得ている（2機関・施設）。また、「在職者に公認心理師資格を取得してほしいか」という質問に対しては、「公認心理師資格を取得してほしい」との回答数が3機関・施設であった。そのうち、「大学院への進学も可能な範囲で支援したい」との回答が2機関・施設であった。

なお、公認心理師の学部カリキュラムを履修した社会人（4年制大学において公認心理師法施行規則第1条の2で定める科目を履修したものや、平成29年9月15日より前に4年制大学において公認心理師法施行規則附則第3条で定める科目を履修したもの）の公認心理師資格取得のニーズが高い。これらの社会人は、「プログラム施設」における2年以上の実務経験により公認心理師の受験資格を得ることができる（BルートもしくはFルート）。プログラム施設とは、公認心理師法第7条第2号に規定する施設として文部科学大臣及び厚生労働大臣による認定を受けた施設のことであるが、令和7年8月時点で全国12か所と認定施設の数が少ない。また、そのうち2か所は少年鑑別所及び刑事施設（法務省矯正局）と家庭裁判所（最高裁判所事務総局家庭局）であり、国家公務員が対象となることから、一般の社会人が実務経験を積むことのできるプログラム施設は、実質10か所しかなく、ほとんどの施設の受け入れ人数は2人と狭き門になっている。加えて本県には、一般の社会人が実務経験を積むことのできるプログラム施設は皆無である。したがって、プログラム施設において2年以上の実務経験を積み、公認心理師の資格を取得しようとする宮崎県内の社会人のニーズに対応することができていない。

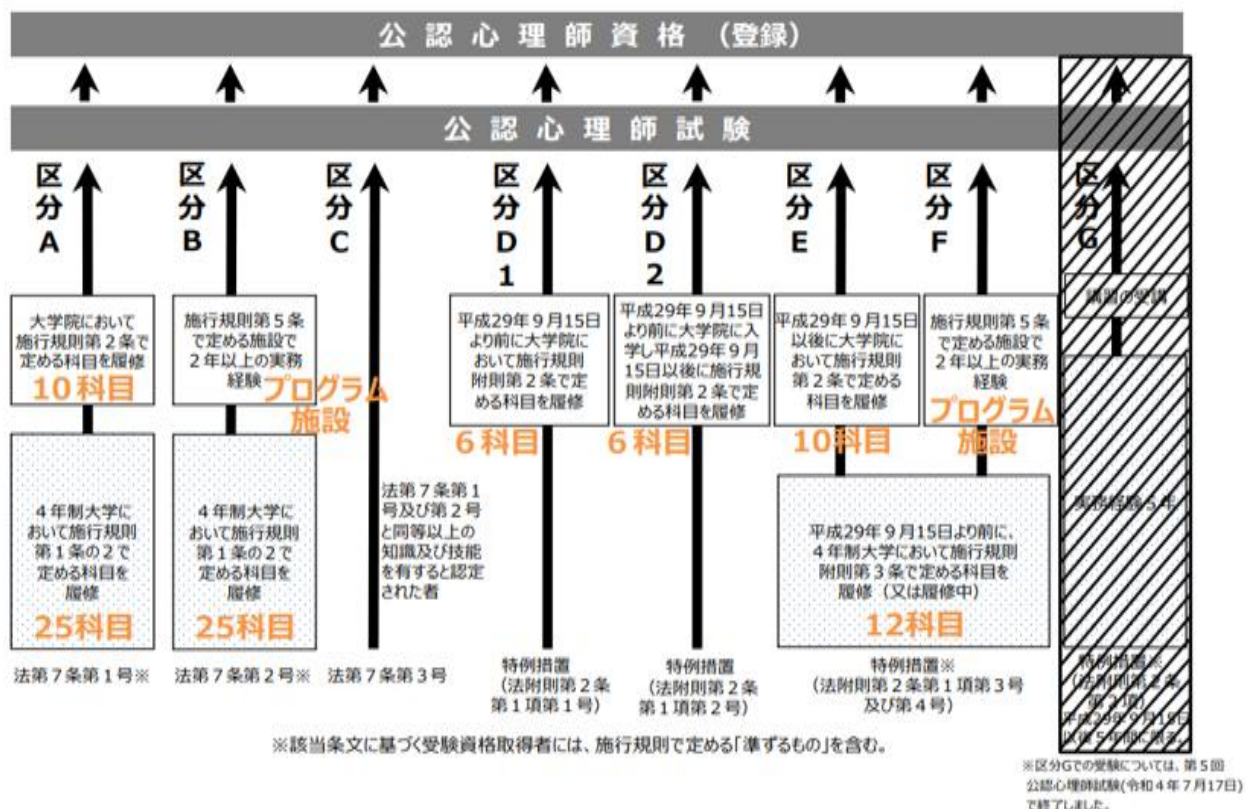


図2：公認心理師の資格取得方法について

（出典：厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_26518.html）

以上のように、「宮崎県内の公認心理師養成学部を有する大学の学生に対するニーズ調査」、「宮崎県内の高校生を対象としたニーズ調査」、「本専攻の学外実習協力施設となる予定の心理支援関係機関へのアンケート」の結果を踏まえると、①県内の公認心理師養成学部の卒業生、②県外の公認心理師養成学部の卒業生、③社会人経験者という3つのターゲット層から、本専攻が設定する入学定員6人を充足するために必要な志願者を確保することは可能と考えられる。

3. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

宮崎大学では、本専攻の令和9年度開設に向けて、各ターゲット層に向けた以下のような広報・連携活動を計画している。

（1）大学院説明会の開催

ターゲット層となる、九州医療科学大学の卒業生、県内外の公認心理師養成大学の卒業生、社会人経験者が参加しやすい、時間、場所で対面、オンラインで大学院説明会を実施する。

（2）ウェブサイトの活用と広報活動

科学者－実践家モデルの理念に基づいた教育、地域課題への貢献を受験生に周知するため、専用のウェブサイトや公式SNSなどのデジタル媒体を活用した情報発信を行う。

(3) パンフレットの作成と配布

多様な受験対象者に向け、公認心理師受験資格の取得だけではなく、認知行動療法を専門的に学修できることや、看護学専攻の学生との共同学修による多職種連携の深い理解と実践力などの本専攻の強みと特色を明確に記載したパンフレットや資料を作成し、戦略的な配布を行う。

(4) 社会人経験者に対する進学促進

本専攻は、社会人経験者も積極的に受け入れるため、広範囲な分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働など）で活躍できる公認心理師の養成を目的とし、県内の各分野での職務経験がある者への広報も行う。また、職業と修学の両立に困難が生じやすい社会人学生の個別の事情に対応できるよう、一部の講義・演習科目や研究指導（実習科目を除く）については、オンラインを活用した学修を可能としたり、長期履修制度を適用したりすることができる体制が整えられていることを、社会人経験者に広報し、特例等の利用を推奨していく。

(5) 他大学や関連学会等との連携強化

学生確保戦略において最も重要視されているのが、県内の公認心理師養成機関（学部）である九州医療科学大学との連携となる。九州医療科学大学は、大学院を設置する予定がなく、宮崎大学の養成課程設置に協力したい意向を示しており、同大学と進学推奨で合意済みである。なお、九州医療科学大学と本学は、平成21年9月に連携協定を締結している。また、令和7年3月に大学等連携推進法人として認定された「高等教育コンソーシアム宮崎」には、九州医療科学大学及び本学も加盟している。また、「宮崎県内の公認心理師養成学部を有する大学の学生に対するニーズ調査」においても、学部を卒業後本専攻への入学を希望する学生が一定数いることも確認している。このような教育の質向上や学術研究の発展、地域貢献の充実などを目的とした連携関係に基づいて、本専攻が認可された後は、積極的に本専攻の特徴を広報したり、進学相談会などを開催したりする。

他にも、本専攻の特徴である「認知行動療法の理論と技法の学修を重視する教育課程」について、関連学会（一般社団法人日本認知・行動療法学会、日本認知療法・認知行動療法学会など）にも本専攻を紹介していく。

以上、5点の取り組みを通して、志願者確保に努める。そして、認知行動療法に関する高度な専門性の向上という志願者のニーズに応えとともに、宮崎県の深刻な公認心理師不足という課題解決に寄与する。

4. 新設組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

わが国における心理支援が必要となる諸問題は、複雑かつ多様化している。これらの心理的諸課題の解決に向けて、公認心理師を着実に養成することが求められる。

公認心理師は、2017年施行の「公認心理師法」に基づく心理支援職唯一の国家資格であり、（1）心理支援が必要な人の心理状態のアセスメント、（2）心理支援が必要な人へ

の相談及び助言、(3) 心理支援が必要な人の関係者に対する相談及び助言、(4) 心の健康に関する教育及び情報の提供を仕事とする。法施行以降、公認心理師資格保有者は着実に拡大しているが、一方で、精神疾患患者は増加し続けている。このような状況を鑑みると公認心理師が十分に足りているとは言い難い。また、公認心理師の勤務地域に関しては地域差が大きく、地方における公認心理師の需要と供給のアンバランスが大きい状況がある。

このような複雑かつ多様化した心の問題が深刻化している社会状況においては、特に、地方における公認心理師不足の問題解決に貢献し、国民の心の問題の解決に寄与できる確かな専門性を有する公認心理師の育成は、地方国立大学の使命の一つであると言える。

本専攻が位置する宮崎県においても、心理的諸問題は深刻な状況にある。例えば、令和6年の自殺死亡率は、全国で11番目に高く、九州では1番高い。また、過去10年間11位を下回ったことはなく、令和5年は全国2番目、令和4年は3番目に自殺死亡率が高い状況にある。そのため、自殺対策の推進に向けて公認心理師の関与が不可欠な状況にある。

しかしながら、宮崎県は大学院が設置されていない数少ない都道府県であり、公認心理師の登録者数が人口10万人あたり全国ワースト7位（西日本ワースト1位）と深刻である。特例措置終了後、県内試験合格者が大幅に減少し（R7年度：2人）、若手専門人材の県外への流出防止が急務となっている。また、病院における公認心理師数も100床あたり0.23人であり、全国平均（0.31人）を大きく下回り、全国ワースト6位の状況である。スクールカウンセラーの内、有資格者の割合が59.3%（令和6年度）となっており、全国平均90.9%（令和4年度）を大きく下回っている状況でもある。

このような公認心理師の不足状況を憂慮し、宮崎県公認心理師・臨床心理士会や宮崎県発達障害者支援センターからは、養成課程設置への要望が届いている。宮崎県公認心理師・臨床心理士会からの要望書には、「公認心理師を募集しても県内の公認心理師はすでに就職して働いており、応募がなく、他県に求人を出すも応募がないという現状もあり、現場での公認心理師・臨床心理士等の心理職不足は深刻」とある。宮崎県や宮崎市においても、公認心理師養成について協議がなされ、実習施設の提供等の協力が確約されている。

なお、実際、本専攻の学外実習協力施設となる予定の心理支援関係機関へのアンケート結果からは（配布数：16機関・施設、回答数：15機関・施設（保健医療分野5、福祉分野4、教育分野3、司法・犯罪分野2、産業・労働分野1））、「本学を修了した公認心理師を貴機関において採用する意向があるか」という質問に対して、「積極的に採用したい」・「採用してもよい」との回答数は7機関・施設で、どの分野からも一定以上の期待が寄せられている。このことは、自由記述からも見て取ることができる（表2）。

これらの客観的な根拠に基づき、本専攻を設置することは、宮崎県の地域課題解決に貢献し、若手専門人材の県外流出防止に繋がると考える。

表2：学外実習施設へのアンケート結果（自由記述回答）

分 野	記述内容
保健医療	・ 専門性が担保された公認心理師が安定的に養成されることで、<u>地域全体のサービスの質の向上につながる</u>ことを期待します。 ・ <u>公認心理師のネットワークの拠点として機能</u>していただき、働き始めた後もスキルアップできる地域を作っていただきたいです。
福祉	・ 公認心理師養成の為、大学院の設置は不可欠と考える。<u>当機関で出来ることがあれば、積極的な支援と協力を行っていきたい。</u> ・ <u>地域社会への大きな期待</u>となるので、協力させていただきます。
教育	・ <u>学校現場の者として公認心理師の必要性を強く感じている。</u>将来性のある現状の課題を解決する良い取組であると感じる。 ・ 宮崎大学大学院で学び、宮崎県内で<u>公認心理師の取得を生かした仕事をされる人材が増えることを願いたい。</u>
司法・犯罪	・ 宮崎県は自殺者数も多く、近年は SNS トラブル等による未成年者の不登校等も増えており心のケアが求められているが、心理師の数は多くないとの事。そのような状況下で、公認心理師を養成する大学院ができれば、志望する者も少なくないと思われ、<u>子ども、犯罪被害者、労働者等、心のケアを必要とする方々の大きな助けになる</u>と考えます。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

資料 1－1	調査票：九州医療科学大学 臨床心理学部 臨床心理学科 学生対象.....	2
資料 1－2	調査結果：九州医療科学大学 臨床心理学部 臨床心理学科 学生.....	4
資料 2－1	調査票：県内高校生に対するニーズ調査.....	7
資料 2－2	調査結果：県内高校生に対するニーズ調査.....	9
資料 2－3	調査結果：県内高校生に対するニーズ調査（クロス集計）.....	11
資料 3－1	調査票：心理実践実習における学生の受入れ候補施設対象.....	12
資料 3－2	調査結果：心理実践実習における学生の受入れ候補施設.....	14

資料１－１ 調査票：九州医療科学大学 臨床心理学部 臨床心理学科 学生対象

公認心理師養成大学院に関するニーズ調査のお願い

現在、宮崎県内の公認心理師の人数は全国状況に比べて少なく、また県内には公認心理師養成大学院がありません。そのため、宮崎大学では九州医療科学大学と連携しながら、公認心理師養成大学院の設置を検討しています。

その検討の一環として、臨床心理学部臨床心理学科の学生さんに、宮崎県における公認心理師養成大学院に関するニーズ調査を実施します。回答期限は、５月１１日（日）とさせていただきます。年度初めのお忙しい時期ですが、ご協力のほどよろしくお願いします。

アンケートは以下からアクセスしてください。（回答期限 ５月１１日（日）です）

回答用 URL:

Q1 あなたの学年をお答えください。

- 1 １年生
- 2 ２年生
- 3 ３年生
- 4 ４年生

Q2 あなたは、公認心理師の資格を取得しようと考えていますか。

- 1 はい → Q3に進んでください
- 2 いいえ → Q8に進んでください

Q3 Q2で「はい」と答えた方にお聞きます。公認心理師の資格を取得したらどのような分野で仕事をしたいと思っていますか。（複数回答可）

- 1 保健医療分野（病院、保健所など）
- 2 教育分野（学校、教育相談センターなど）
- 3 福祉分野（児童福祉施設、障害者福祉施設など）
- 4 産業・労働分野（企業の健康管理・相談室など）
- 5 司法・犯罪分野（警察、裁判所など）

Q4 Q2で「はい」と答えた方にお聞きます。あなたは、公認心理師の資格取得後、どこで仕事をしたいと考えていますか。

- 1 宮崎県
- 2 宮崎県以外の都道府県（ ）（未定を含む。）

Q5 Q2で「はい」と答えた方にお聞きます。あなたは、どのように公認心理師の資格を取得しようと考えていますか。

(参考)「公認心理師」の国家資格取得方法 (九州医療科学大学ホームページ)

<https://www.phoenix.ac.jp/course/%e3%80%8c%e5%85%ac%e8%aa%8d%e5%bf%83%e7%90%86%e5%b8%ab%e3%80%8d%e3%81%ae%e5%9b%bd%e5%ae%b6%e8%b3%87%e6%a0%bc%e5%8f%96%e5%be%97%e6%96%b9%e6%b3%95>

- 1 大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい。 → Q6に進んでください
- 2 学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい。 → Q7に進んでください

Q6 Q5で「大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方にお聞きます。

進学希望の大学院はどのような大学院ですか。

- 1 宮崎県に公認心理師養成大学院があれば、宮崎県内の大学院
- 2 出身地(宮崎県以外)の公認心理師養成大学院
- 3 その他の大学院() (未定を含む。)

Q7 Q5で「学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方にお聞きます。大学院に進学せずに、学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得ようとする理由をお答えください。

- 1 早く臨床現場で働きたいから
- 2 大学院に行かなくても公認心理師の資格が取得できるから
- 3 大学院進学に関心がないわけではないが、経済的な負担がかかるから
- 4 その他()

Q8 Q2で「いいえ」と答えた方にお聞きます。公認心理師の資格を取得しようと考えていない理由をお答えください。

- 1 社会福祉士、言語聴覚士などの他の資格を取得したいから
- 2 公認心理師の資格取得をするためには大学院に行く必要があるから
- 3 公認心理師を取得しても将来の生活が心配だから
- 4 資格取得とは関係のない進路を考えているから
- 5 その他()

ご協力ありがとうございました。

資料１－２ 調査結果：九州医療科学大学 臨床心理学部 臨床心理学科 学生

公認心理師養成大学院に関するニーズ調査

【対象者】 九州医療科学大学臨床心理学部臨床心理学科の学生 78 人

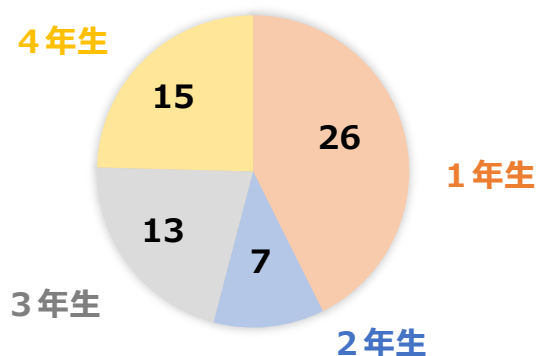
※2 年次以降は心理・福祉コースの学生のみ（1 年生：37 人 2 年生：8 人 3 年生：13 人
4 年生：20 人）

【アンケート実施期間】 2025 年 4 月 15 日～2025 年 5 月 11 日

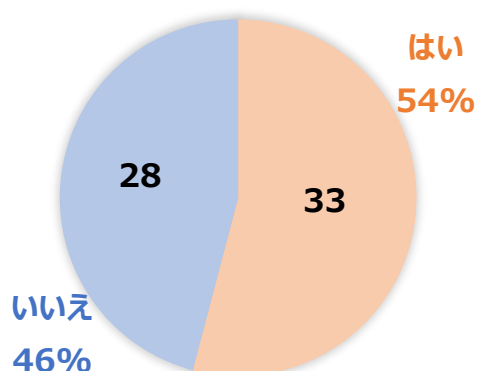
【回答率】 78.2%（61 人／78 人）

※各回答の割合は四捨五入し、整数で表記

1. あなたの学年をお答えください。



2. 公認心理師の資格を取得しようと考えていますか。

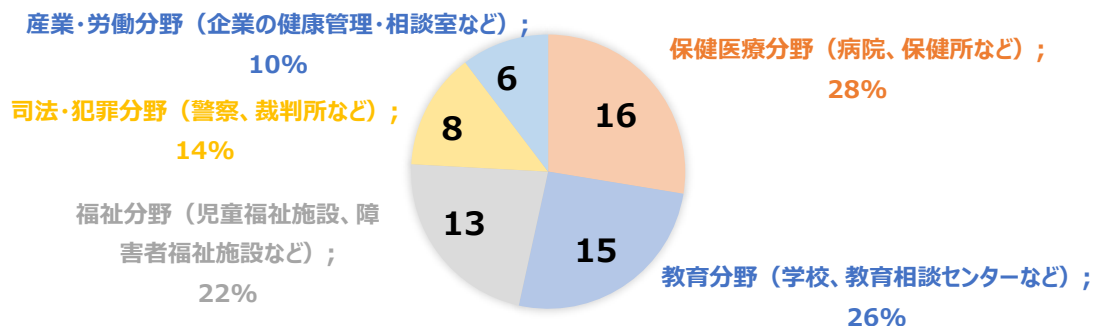


【学年毎の内訳】

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	総計
はい	12	7	9	5	33
いいえ	14	0	4	10	28
総計	26	7	13	15	61

2. で「はい」と答えた方

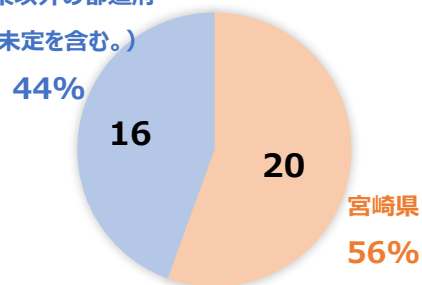
3. 公認心理師の資格を取得したらどのような分野で仕事をしたいと思っていますか。
(複数回答可)



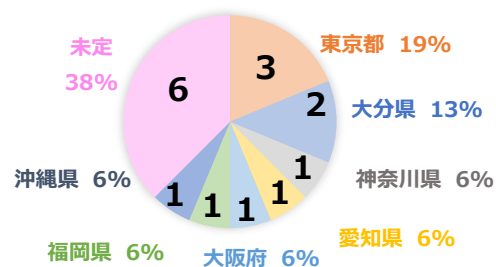
4. 公認心理師の資格取得後、どこで仕事をしたいと考えていますか。

※「宮崎県」と「宮崎県以外の都道府県（未定を含む）」の両方を回答、または「宮崎県以外の都道府県（未定を含む）」で複数の都道府県を回答していた場合は、それぞれ計上しています。

宮崎県以外の都道府県
(未定を含む。)

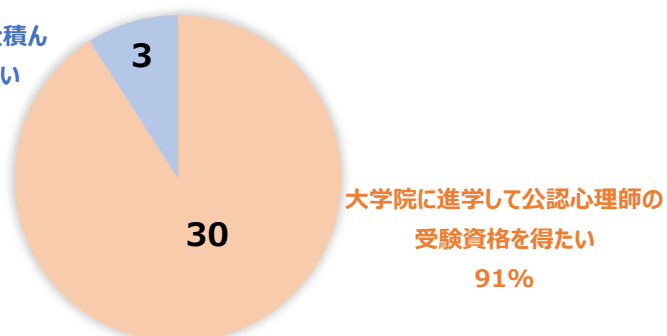


【宮崎県以外の都道府県（未定を含む）の回答内訳】



5. どのように公認心理師の資格を取得しようと考えていますか。

学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい
9%

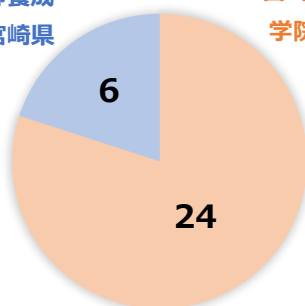


5. で「大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方

6. 進学希望の大学院はどのような大学院ですか。

宮崎県に公認心理師養成
大学院があっても、宮崎県
以外の大学院
20%

宮崎県に公認心理師養成大
学院があれば、宮崎県内の
大学院
80%

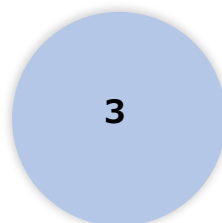


【学年毎の内訳】

	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
宮崎県内	11	4	4	5	24
宮崎県外	1	3	2	0	6
総計	12	7	6	5	30

5. で「学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方

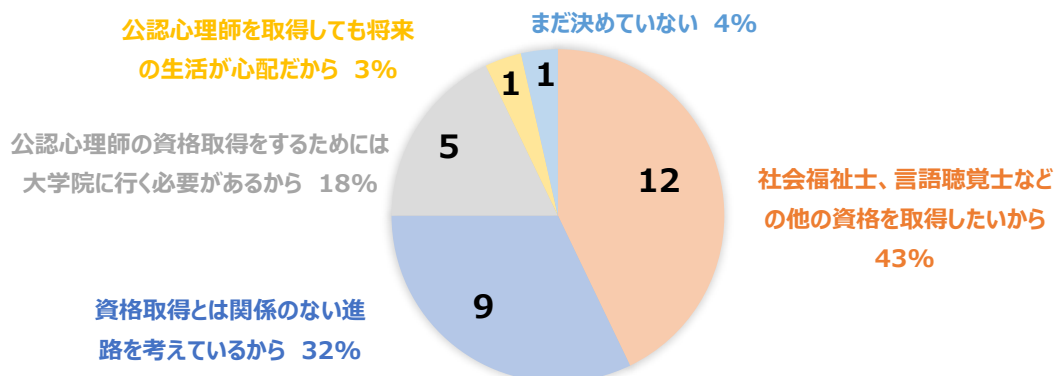
7. 大学院に進学せずに、学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得ようとする理由をお答えください。



大学院進学に関心がないわけでは
ないが、経済的な負担がかかるから

2. で「いいえ」と答えた方

8. 公認心理師の資格を取得しようと考えていない理由をお答えください。



資料 2－1 調査票：県内高校生に対するニーズ調査

高校生の公認心理師に関する進路希望アンケートへのご協力をお願い

心理カウンセラーなど心の健康に関わる国家資格として、最近「公認心理師」が誕生したのをご存知の方も多いかもかもしれません。公認心理師になるための方法として 4 年制大学を出た後で「公認心理師養成大学院」で学び、国家試験に合格して資格を得る方法があります（詳細はアンケートの質問 6 をご覧ください）。

ところが、宮崎県には公認心理師養成大学院がありません。そのため、現在、宮崎大学では公認心理師養成大学院（修士課程）の新設に向けて準備を進めています。その準備の一環として、高校生のみなさんに公認心理師に関する進路希望アンケートについてご協力をお願いしています。

アンケートはみなさんの自由意思で回答していただきたいと考えており、強制ではありません。

回答期限は、2 月 28 日（土）とさせていただきます。

短い期間でのご回答になり申し訳ありませんが、ご協力のほどよろしくお願いします。

（参考）健康科学研究科（現：看護学研究科）心理科学専攻 [修士課程] 説明資料

https://www.miyazaki-u.ac.jp/UoM_shiryou01.pdf

アンケートのご協力のご意思についてお答えください。

- 1 アンケートに協力します。
- 2 アンケートに協力しません。

Q1 あなたの学年をお答えください。

- 1 1 年生
- 2 2 年生
- 3 3 年生

Q2 あなたの希望する職業として、「公認心理師（心理カウンセラーの国家資格）」を考えていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

Q3 公認心理師の資格を取得したらどのような分野で仕事をしたいと思っていますか。（複数回答可）

- 1 保健医療分野（病院、保健所など）
- 2 教育分野（学校、教育相談センターなど）
- 3 福祉分野（児童福祉施設、障害者福祉施設など）

- 4 産業・労働分野（企業の健康管理・相談室など）
- 5 司法・犯罪分野（警察、裁判所など）

Q4 あなたは、公認心理師の資格取得後、どこで仕事をしたいと考えていますか。

- 1 宮崎県
- 2 その他（ ）

Q5 あなたは、どのように公認心理師の資格を取得しようと考えていますか。

公認心理師受験資格の取得には、主に2つの方法があります。

ルート A 4年制大学に進学して必要な科目を履修した後、大学院に進学して必要な科目を履修することで、受験資格を得る。

ルート B 4年制大学に進学して必要な科目を履修した後、定められた施設（全国12か所）で実務経験を2年以上積むことで、受験資格を得る。

- 1 4年制大学に進学し、その後すぐに大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい。
- 2 学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい。

Q6 Q5で「大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方にお聞きします。

進学希望の大学院は宮崎大学と県外の大学院のどちらをお考えですか。

- 1 宮崎大学に公認心理師養成大学院があれば、宮崎大学大学院
- 2 宮崎大学に公認心理師養成大学院があっても、宮崎県以外の大学院
- 3 わからない

Q7 Q5で「学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方にお聞きします。

大学院に進学せずに、学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得ようとする理由をお答えください。

- 1 早く臨床現場で働きたいから
- 2 大学院に行かなくても公認心理師の資格が取得できるから
- 3 大学院進学に関心がないわけではないが、経済的な負担がかかるから
- 4 その他（ ）

資料２－２ 調査結果：県内高校生に対するニーズ調査

高校生の公認心理師に関する進路希望アンケート

【対象者】 宮崎県内の公立高等学校の主要な進学校 8 校*の生徒（計 6,827 人：1 年生 2,304 人、2 年生 2,275 人、3 年生 2,248 人）

* 宮崎大宮高校、宮崎西高校、宮崎南高校、宮崎北高校、延岡高校、延岡星雲高校、都城泉ヶ丘高校、都城西高校

【アンケート実施期間】 2026 年 2 月 10 日～2026 年 2 月 28 日

【回答率】 6.25%（427 人／6,827 人）

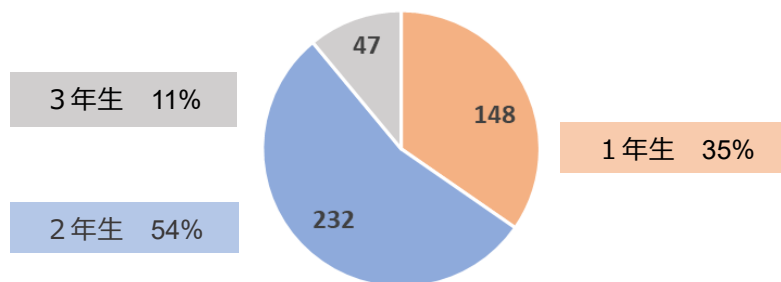
※「アンケートに協力しない」と回答した 10 人を除く

※各回答において未回答者がいる場合は、集計から除外

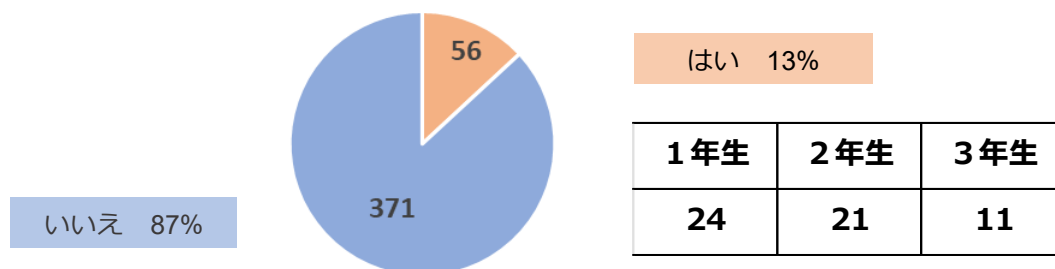
※各回答の割合は四捨五入し、整数で表記

アンケートに協力すると回答した人のうち

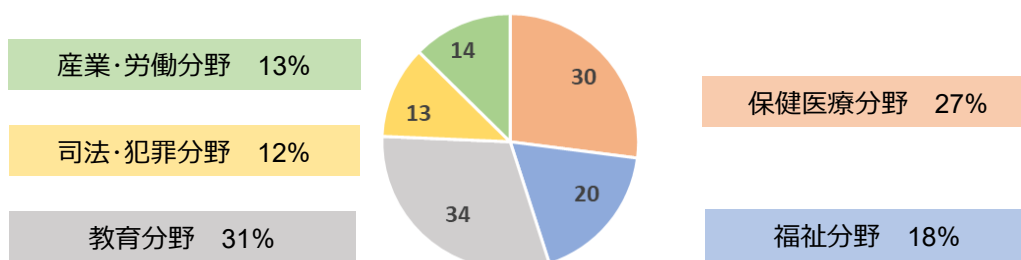
1. あなたの学年をお答えください。



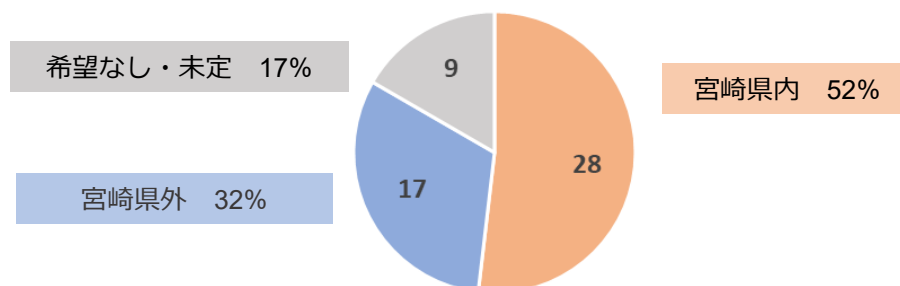
2. あなたの希望する職業として、「公認心理師（心理カウンセラーの国家資格）」を考えていますか。



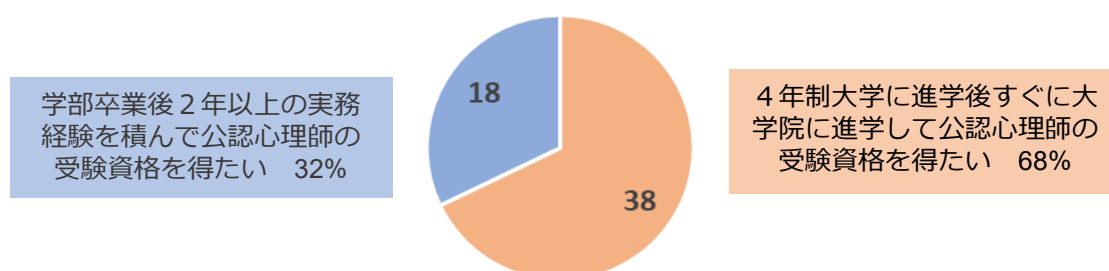
3. 公認心理師の資格を取得したらどのような分野で仕事をしたいと思っていますか。（複数回答可）



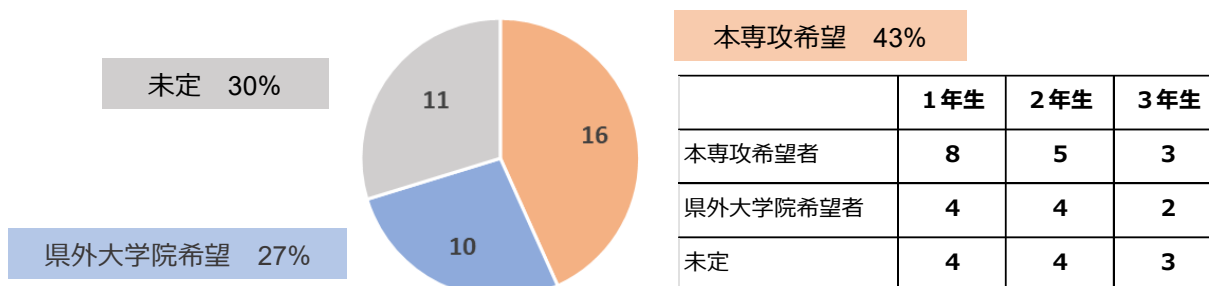
4. あなたは、公認心理師の資格取得後、どこで仕事をしたいと考えていますか。



5. あなたは、どのように公認心理師の資格を取得しようと考えていますか。

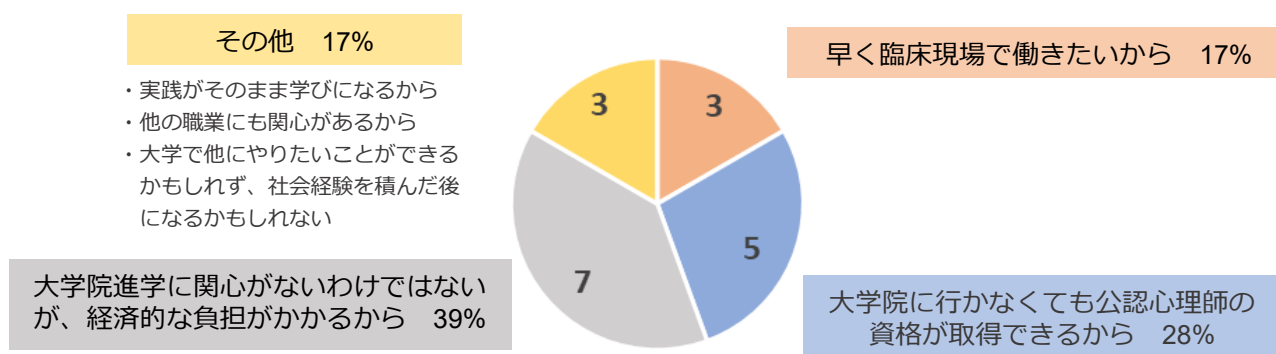


6. 5. で「大学院に進学して公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方にお聞きます。進学希望の大学院は宮崎大学と県外の大学院のどちらをお考えですか。



7. 5. で「学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得たい」と答えた方にお聞きます。

大学院に進学せずに、学部卒業後2年以上の実務経験を積んで公認心理師の受験資格を得ようとする理由をお答えください。



資料 2-3 調査結果：県内高校生に対するニーズ調査（クロス集計）

質問項目	結 果		
Q1 学年×Q2「公認心理師」希望	1 年生	2 年生	3 年生
	24 人	21 人	11 人
Q2 で「公認心理師希望」と回答した生徒 56 人のうち			
Q3 公認心理師の資格取得後の活動分野 (複数回答可)	保健医療分野		27%
	福祉分野		18%
	教育分野		31%
	司法・犯罪分野		12%
	産業・労働分野		13%
Q4 公認心理師として宮崎県で働きたい	28 人 (52%)		
Q5 公認心理師の受験資格取得方法	大学院進学		38 人 (68%)
	学部卒業後 2 年以上の実務経験を積む		18 人 (32%)
Q5 で大学院進学と回答した生徒 38 人のうち			
Q6 宮崎大学大学院に進学希望	1 年生	2 年生	3 年生
	8 人	5 人	3 人
Q6 分からない	4 人	4 人	3 人
Q6 宮崎大学×Q4 宮崎県就職	7 人	4 人	2 人
Q6 分からない×Q4 宮崎県就職	0 人	3 人	0 人
Q6 他大学×Q4 宮崎県就職	1 人	1 人	0 人
Q5 で「学部卒業後 2 年以上の実務経験を積む」と回答した生徒 18 人のうち			
Q5 実務経験×Q4 宮崎県就職	2 人	5 人	2 人
Q7 学部卒業後 2 年以上の実務経験を積む理由	早く臨床現場で働きたいから		3 人 (17%)
	大学院に行かなくても公認心理師の資格が取得できるから		5 人 (28%)
	大学院進学に関心がないわけではないが、経済的な負担がかかるから		7 人 (39%)
	その他		3 人 (17%)

資料 3－1 調査票：心理実践実習における学生の受入れ候補施設対象

公認心理師養成大学院（修士課程）の設置に関するアンケート

現在、宮崎県内の公認心理師の人数は全国状況に比べて少なく、また県内には公認心理師養成大学院がありません。そのため、現在、宮崎大学では公認心理師養成大学院（修士課程）の新設に向けて準備を進めています。その準備の一環として、公認心理師関連 5 分野の関係機関の皆様へ、本学に公認心理師養成大学院を設置することについてアンケートをお願いしています。回答期限は、2 月 20 日（金）とさせていただきます。短い期間でのご回答になり申し訳ありませんが、ご協力のほどよろしくお願いします。

【貴機関について】

Q1 貴機関の名称と分野をお答えください。

- 1 保健医療分野（病院、保健所など）
- 2 教育分野（学校、教育相談センターなど）
- 3 福祉分野（児童福祉施設、障害者福祉施設など）
- 4 産業・労働分野（企業の健康管理・相談室など）
- 5 司法・犯罪分野（警察、裁判所など）

【実習受入について】

Q2 貴機関では、実習指導者の要件を満たす職員が勤務されていますか。

- 1 はい → Q3 に進んでください
- 2 いいえ

Q3 Q2 で「はい」とお答えの方にお聞きします。

貴機関では、本学が設置する公認心理師養成大学院の学生の実習を受け入れることができますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

【講義でのゲストスピーカーについて】

Q4 貴機関では、本学が設置する公認心理師養成大学院の講義のなかで、ゲストスピーカーとしてご協力いただくことができますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

【本学を修了した公認心理師の採用について】

Q5 本学を修了した公認心理師を貴機関において採用するご意向をお持ちですか。

- 1 積極的に採用したい →※もし目安の人数があればご教示ください。 () 人
- 2 採用してもよい →※もし目安の人数があればご教示ください。 () 人
- 3 採用の意向はない
- 4 わからない・未定

【本学大学院への進学希望者の有無について】

Q6 貴機関には、学部段階の公認心理師資格の取得に必要なカリキュラムを履修しているが、大学院のカリキュラムを未履修の方がいらっしゃいますか。

- 1 該当者がいる → () 人 → Q7にお進みください。
- 2 該当者はいない

Q7 貴機関に在職されている学部段階の公認心理師資格の取得に必要なカリキュラムを履修している方には、将来、公認心理師資格を取得してほしいとお考えですか。

- 1 該当者には公認心理師資格を取得してほしい。そのために、大学院への進学も可能な範囲で支援したい。
- 2 該当者には公認心理師資格を取得してほしいが、勤務等の関係で難しいと考えている。
- 3 該当者が公認心理師資格を取得することはあまり考えていない。

Q8 その他、本学大学院が公認心理師養成に取り組むことについてご意見がありましたら以下にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

資料３－２ 調査結果：心理実践実習における学生の受入れ候補施設

公認心理師養成大学院（修士課程）の設置に関するアンケート

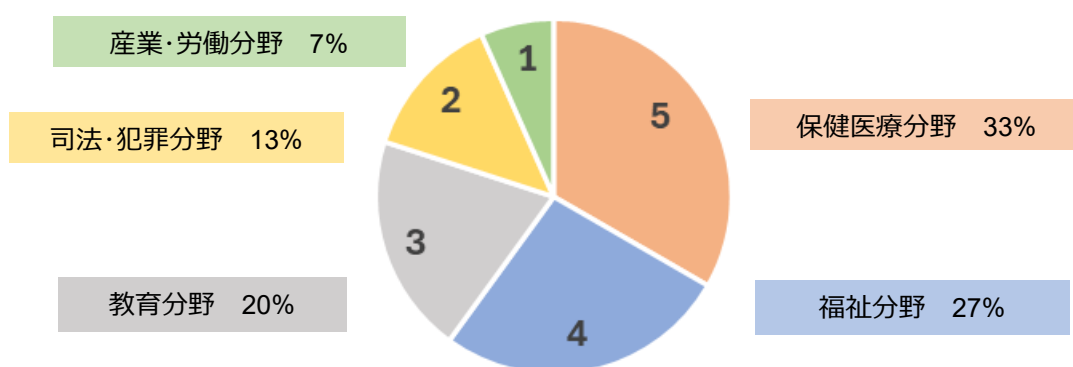
【対象者】 心理実践実習における学生の受入れ候補施設 16 機関

【アンケート実施期間】 2026 年 2 月 9 日～2026 年 2 月 27 日

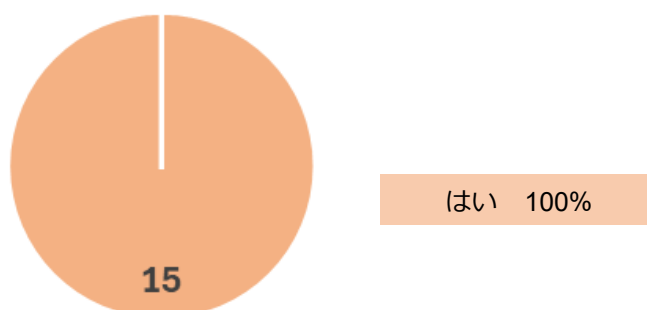
【回答率】 93.8%（15 機関・施設／16 機関・施設）

※各回答の割合は四捨五入し、整数で表記

1. 貴機関の名称と分野をお答えください。

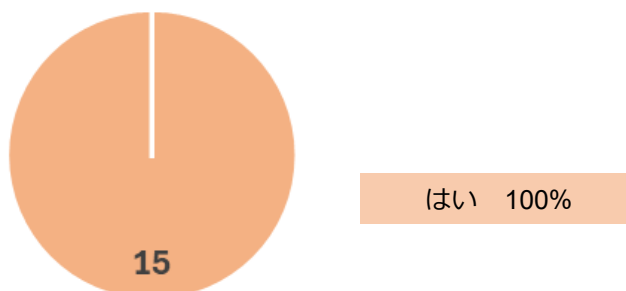


2. 貴機関では、実習指導者の要件を満たす職員が勤務されていますか。

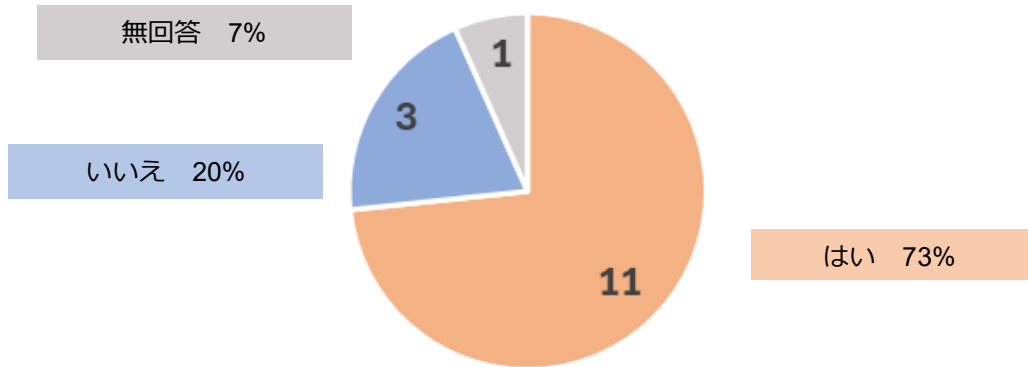


2. で「はい」と答えた方

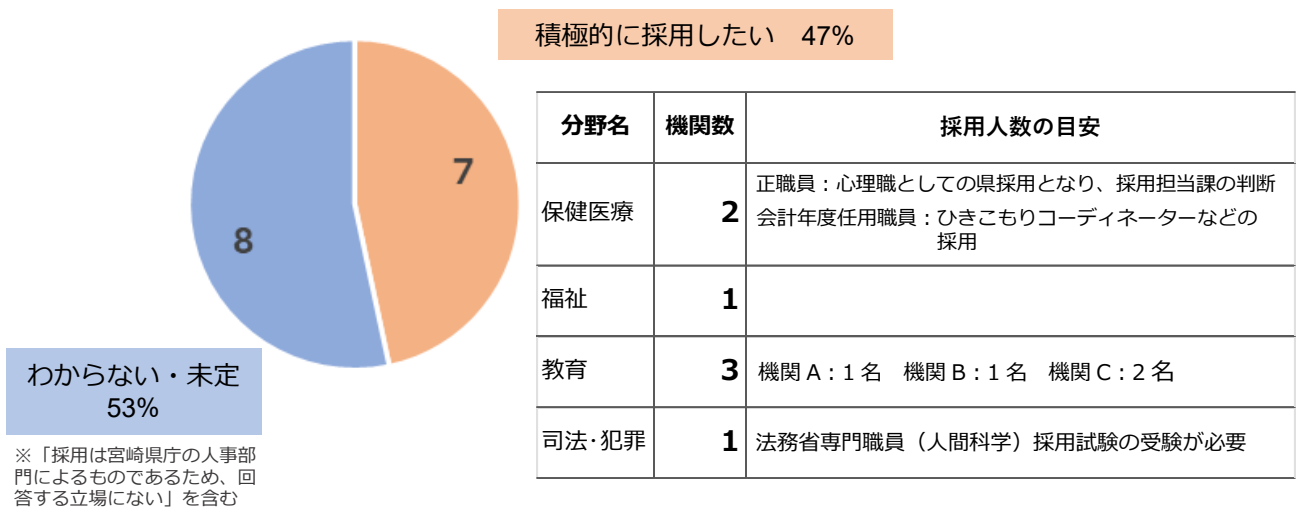
3. 貴機関では、本学が設置する公認心理師養成大学院の学生の実習を受け入れることができますか。



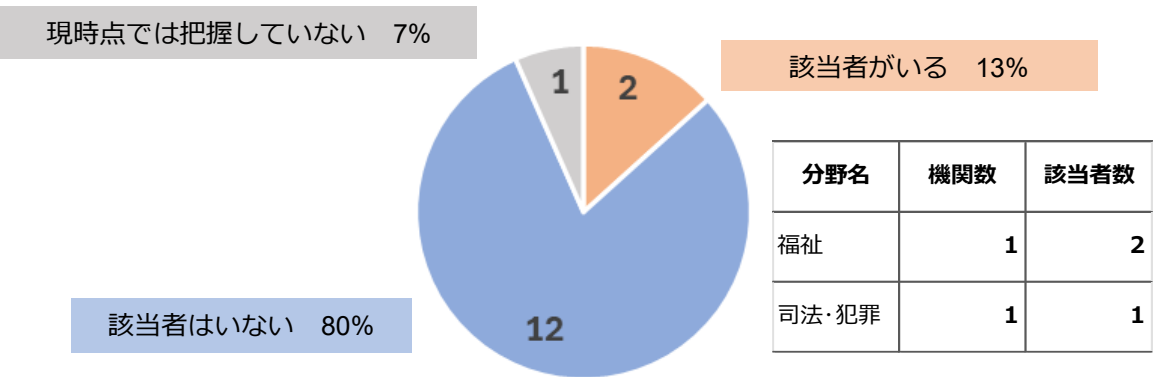
4. 貴機関では、本学が設置する公認心理師養成大学院の講義のなかで、ゲストスピーカーとしてご協力いただくことができますか。



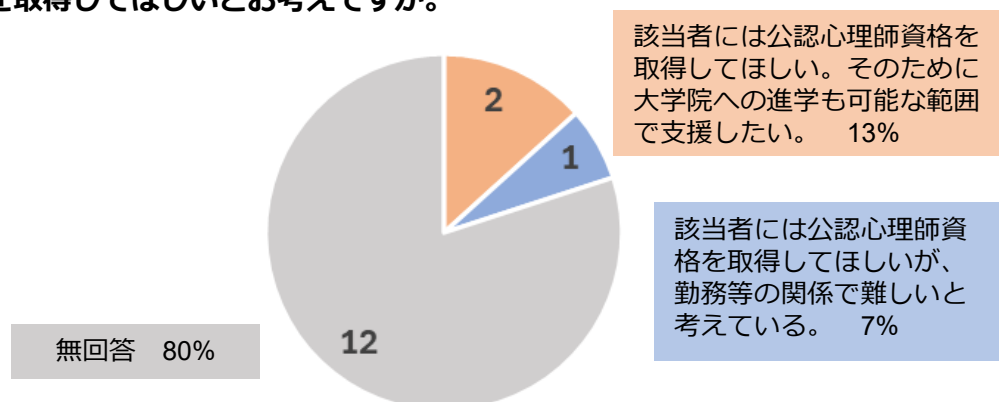
5. 本学を修了した公認心理師を貴機関において採用するご意向をお持ちですか。



6. 【本学大学院への進学希望者の有無について】貴機関には、学部段階の公認心理師資格の取得に必要なカリキュラムを履修しているが、大学院のカリキュラムを未履修の方がいらっしゃいますか。



7.【本学大学院への進学希望者の有無について】貴機関に在職されている学部段階の公認心理師資格の取得に必要なカリキュラムを履修している方には、将来、公認心理師資格を取得してほしいとお考えですか。



8. その他、本学大学院が公認心理師養成に取り組むことについてご意見がありましたらお書きください。

- ・ 学校現場の者として公認心理師の必要性を強く感じている。将来性のある現状の課題を解決する良い取組であると感じる。
- ・ 宮崎県は自殺者数も多く、近年は SNS トラブル等による未成年者の不登校等も増えており心のケアが求められているが、心理師の数は多くないとの事。そのような状況下で、公認心理師を養成する大学院ができれば、志望する者も少なくないと思われ、子ども、犯罪被害者、労働者等、心のケアを必要とする方々の大きな助けになると考えます。
- ・ 宮崎大学大学院で学び、宮崎県内で公認心理師の取得を生かした仕事をされる人材が増えることを願いたい。
- ・ 公認心理師養成の為、大学院の設置は不可欠と考える。当機関で出来ることがあれば、積極的な支援と協力を行っていきたい。
- ・ 地域社会への大きな期待となるので、協力させていただきます。
- ・ 専門性が担保された公認心理師が安定的に養成されることで、地域全体のサービスの質の向上につながることを期待します。公認心理師のネットワークの拠点として機能していただき、働き始めた後もスキルアップできる地域を作っていっていただきたいです。